

白糠高、中行事など合同で

生徒同士の学習交流推進

【白糠】白糠高校（田村信明校長）は4月1日から、町と連携して新たな取り組みを始める。町立白糠中学校の同校への一時移転に合わせて両校の交流を本格化させるほか、タブレット端末の積極活用や公営塾の会場一本化など学習の最適化も進めていく。同校では教職員の負担軽減や、地域の人材などを生かしたより充実した授業内容になると期待している。（水谷友路）

義務教育学校「町立白糠学園」の校舎となる現白糠中学校舎が改修を終える来年7月まで、講演会や避難訓練、芸術鑑賞といった行事の中高合同実施を計画している。希望する生徒を対象に町の学校給食の無償提供も始まる。家庭の経済的負担軽減や地元食材を活用した給食を通して地域への愛着などにつなげる。

町から学習用タブレット

地域人材生かし人間力向上

新たなチャレンジを始める
白糠高校



端末40台の貸与などを受けているが、今回からリクルートのオンライン予備校「スタディサプリ」を導入する。同校教育振興協議会（小松嗣明会長）が費用を全額負担し、全生徒が無償

で学び直しや受験勉強など自分のレベルに合わせた学習ができるようになる。

同校の生徒を対象にした公営塾「久遠塾」は、町公民館と同校の2会場から同校図書室に一本化する。白糠中の一時移転により、同じ町営の同塾スタッフのみによる夜間の校内管理が認められたため、公民館同様午後9時まで開放可能になる。塾生は公民館へ出向く必要がなくなり、より気軽に通えるようになる。白糠学園開校後も継続する予定だ。

同校では20年度から町教育委員会の地域教育コーディネーターを1人配置しており、新年度からは総合的

な探究の時間の全体計画や授業運営を教員と担う。福田敏憲教頭は「学力はもちろんだ地域を愛する心や健康な体など、生徒の土台となる人間力の向上も図っていききたい」と意気込んでいる。